

## 石川県におけるウメの訪花ハチ類

橋 本 尚

Hisashi HASHIMOTO: Hymenopterous insect visitors on the flowers  
of the plum tree in Ishikawa prefecture

ウメの訪花ハチ類については、徳永らによる報告があるが、石川県においては、ウメの訪花ハチ類についての報告はないようである。

筆者は、1977年の春、金沢市の兼六園にある梅林や、小松市の芦城公園、および、河北郡宇ノ気町にある石川県砂丘地農業試験場に植栽されているウメについて、その訪花ハチ類の調査を行ったので、ここにその結果を報告する。

本文に入るに先だち、ハナバチ類の同定をして頂いた九州大学農学部平嶋義宏教授、ナギナタハバチの同定をして頂いた、石川県農業短期大学の富樫一次教授に深く感謝の意を表す。

### 調査期間と方法

兼六園の梅林では、ウメの花が咲きはじめた3月13日より、4月17日まで調査を行ったが、調査時の気候条件等は第1表に示した。しかし、3月13日と28日、および4月10日の3回は、短時間の調査であったため、この表からは除外してある。

芦城公園における調査は、3月中旬より4月上旬まで行い、石川県砂丘地農業試験場での調査は、4月4日に行った。

この場合、ウメは白梅を対象として調査を行い、紅梅については全く調査しなかった。

調査時間は、9時より15時までの6時間を原則とし、その間、30分単位で2種の調査を繰返し行った。最初の30分間は、観察日ごとに、もっとも多く開花している木

第1表 調査日ごとの気象条件と開花状況

調査月日	天 候	平均 (* ) 兼六園 日照 (* ) 調査木 間 開花状況	平均 気温 °C	兼六園 気温 °C	日照 時間	調査木 間 開花状況	備 考
3月15日	快 晴		9.0	12.8	8.6	50	開花木3本 咲あり
18日	曇 後雨		10.1	15.6	0.9	70	
22日	曇		9.4	15.8	2.5	80	咲消える
29日	晴 後曇		6.4	12.5	10.2	100	
4月5日	快晴後曇		9.1	14.4	8.3	100	
11日	晴		10.9	19.7	10.8	70	サクラ6分 咲
17日	曇		12.3	16.5	6.5	50	開花木7本

(\* ) 金沢気象台のデータ (新聞紙上に公表されたもの) による

小松農業改良普及所 Komatsu Agricultural Extension Office, Sonomachi, Komatsu, Ishikawa 923

を選び、さらに、その木の中でも、もっとも観察しやすい枝について、花に飛来するハチ類を、ハンドカウンターを用いて数え記録した。次の30分間は、梅林内を自由に移動しながら、花に飛来したハチ類の採集を行った。

芦城公園や石川県砂丘地農業試験場では、花に飛来するハチ類を採集するにとどめた。

### 結果と考察

調査地点ごとの訪花ハチ類は第2表に示したが、これらのうち *Xyela obscura* (Strobl) ナギナタハバチはウメの花粉を食害していたもので、これは初めての記録であろう。また、*Vespula flaviceps lewisii* Cameron クロスズメバチと *Polistes snelleni* Saussure コアシナガバチの2種は、吸蜜のために花を訪れたものであろう。

*Osmia cornifrons* (Radoszkowski) マメコバチは、芦城公園のウメの花に飛来していたが、本種は兼六園(富樫<sup>1)</sup>)や石川県砂丘地農業試験場でも採集されているにもかかわらず、ウメの花に飛来しなかった理由は明ら

第2表 訪花ハチ類とその産地

種 名	調 査 地		
	兼六園	芦城公園	試験場*
<i>Xyelidae</i>			
<i>Xyela obscura</i> (Strobl)	○		
<i>Vespidae</i>			
<i>Polistes snelleni</i> Saussure	○		
<i>Vespula flaviceps lewisii</i> Cameron		○	
<i>Andrenidae</i>			
<i>Andrena fukuii</i> Cockerell	○	○	
<i>Andrena sublevigata</i> Hirashima	○		
<i>Andrena nawai</i> Cockerell	○		
<i>Andrena brevihirtiscopa</i> Hirashima	○	○	
<i>Andrena stellaria</i> Hirashima	○		
<i>Halticidae</i>			
<i>Lasioglossum discrepans</i> Pérez	○		
<i>Lasioglossum trispina</i> Vachal	○		
<i>Megachilidae</i>			
<i>Osmia cornifrons</i> (Radoszkowski)		○	
<i>Apidae</i>			
<i>Nomada</i> sp. 1	○		
<i>Nomada</i> sp. 2	○		
<i>Apis mellifera</i> Linnaeus	○	○	○

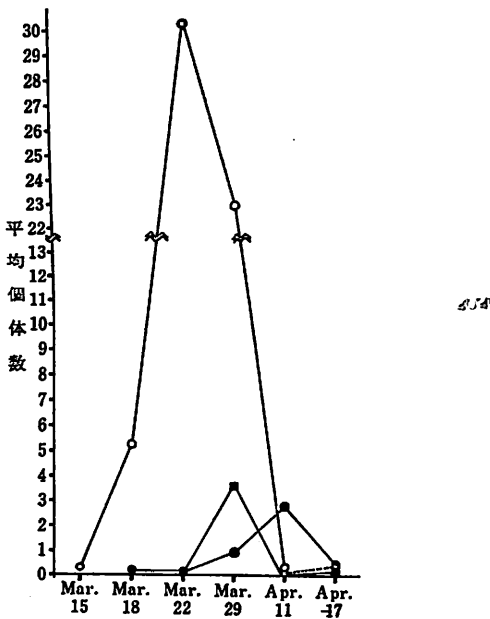
\* 石川県砂丘地農業試験場

第3表 飛来したハナバチ類の総個体数とその割合

種名	個体数	割合(%)
<i>Apis mellifera</i>	700	84.7
<i>Andrena sublevigata</i>	54	6.5
<i>Andrena nawai</i>	36	4.4
<i>Andrena fukaii</i>	13	1.6
<i>Lasioglossum discrepans</i>	18	2.2
その他	5	0.6
Total	826	100.0

かにできなかった。

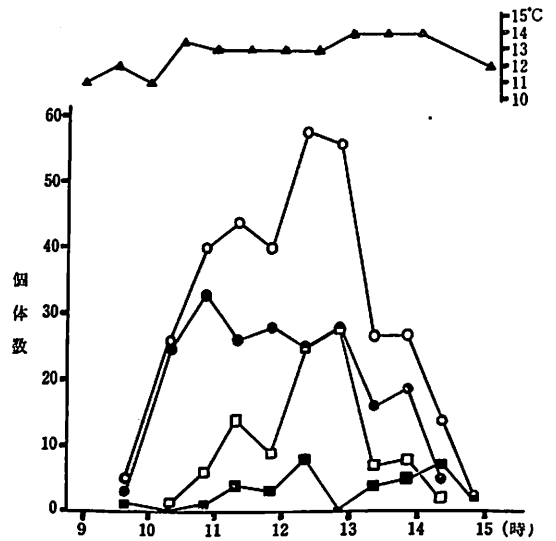
第3表は、兼六園梅林での訪花ハチ類の飛来個体数を示したものである。すなわち、ミツバチの飛来数をもっとも多く、全飛来数の84.7%を占めていたが、野生ハナバチ類は、わずか15.3%にすぎなかった、この結果は、徳永ら<sup>2)</sup>の結果と極めてよく似ていた。



第1図 訪花ハナバチ数種の飛来消長

○—ミツバチ    ●—*Andrena sublevigata*  
 ■—*Andrena nawai*    □—*Andrena fukaii*

第1図は、兼六園の梅林における、訪花ハナバチ類数種の飛来消長を示したものである。すなわち、ミツバチの飛来は、ウメの開花期間の前半に多く、3月29日以降は、飛来数が激減している。これに対し、野生ハナバチ類は、3月18日に初飛来を記録して以来、少しずつ増加し、4月11日にはその飛来数が最多になったが、飛来の割合は極めて小さかった。



第2図 日週活動と気温の変化

○—全飛来数    ●—黒色系ミツバチ  
 □—橙色系ミツバチ    ■—野生ハナバチ類

訪花ハナバチ類の日週活動は、3月29日に調査した。その結果、活動のピークは12時すぎであったが、この変動に大きな影響を与えたものは、ミツバチの活動であるといえよう。兼六園の梅林では、2系統のミツバチがウメの花を訪れており、その日週活動にも変化が認められた(第2図)。すなわち、黒色系のミツバチは、10時頃から飛来し、11時にはすでに活動のピークに達していたが、腹部の橙色をした橙色系のミツバチは、訪花のピークがおそく、また、13時以後は飛来数が減少していた。

なお、この3月29日は、気温は日中13~14°Cであったが、13時すぎからの飛来数の激減は、橙色系ミツバチの飛来数が大きく関与しているものといえよう。

ま と め

1 本調査において、ウメの訪花ハナバチ類中、もっとも個体数の多かったものはミツバチで、全飛来数の84.7%を占めていた。

2 訪花ハナバチ類の飛来消長は、ミツバチの飛来状況に大きく影響されるように推察された。

文 献

1) 富樫一次 (1972) 兼六園の昆虫. 兼六園全史 467~475. 2) 徳永雅明・笹川満広・秋山順 (1959) 果樹の訪花昆虫についての2・3の考察. 京都府大学術報告, 農学 11: 59~70. (1982年6月4日受領)